

陳情第9号

（仮称）帯解こども園の開設に関する陳情書

平成26年2月25日受理

陳情者



帯解地区自治連合会

会長 西 井 正 次 外3名

奈良市当局では、平成27年4月に「（仮称）帯解こども園」を開設される計画であります。これについては、幼保再編のモデル園として本市で初めて認可幼稚園と認可保育所を一体化した「幼保連携型認定こども園」になる予定です。

市計画である「帯解こども園」については、昨年11月29日・12月2日に保護者説明会、12月25日に地区団体説明会が実施され、地元はその内容が初めて知らされました。

そして、説明会を受けて地元よりさまざまな意見が出てまいりました。

①新園舎工事期間中予定されている帯解幼稚園舎での幼保合同保育には無理がある

（平成26年7月から平成27年3月まで）

- ・ こども園への移行期間中の幼保合同保育は教育面においても不安が大きい。
幼稚園で新入園児の入園取り消しがあった。さらなる入園辞退も懸念される。
- ・ 幼稚園舎の簡単な修繕工事では、園児の環境、雨天時の活動の停滞など懸念される。
- ・ 安全、安心な通園経路の確保が難しい。

②新たな園舎の建設（案）について

- ・ 本来なら、民有地を買い上げ、新園舎を建設して「こども園」を発足すべき。
- ・ 以前から保育園舎の、園庭の拡張と危険防止のための園前の道路の拡幅の要望をしているが目途が立っていない。
- ・ 新園舎前の道路の拡張について、小学校敷地をセットバックさせて広げられないか。
また、バンビーホームを小学校敷地内に移転して園庭を広げられないか。

上記のとおり、現保育園を「帯解こども園」としてスタートすることについては、多くの課題や懸念が生じてまいりました。

特に朝夕の園児の送迎は、前面道路が狭いため今までも地域の農家の皆様方の通行等、支障を来しがちでありましたが、「こども園」に移行することにより、より一層安心・安全面において懸念が高まると考えられます。

これら懸念の払拭には北側の用地確保等の取り組みも必要と考えます。

したがって、市当局が新園舎完成の目標スケジュールを1年間延期し、敷地の拡大や道路の整備、そしてバンビーホームの移転等を再考していただけますよう、陳情いたします。

以上